

平成28年度 第1回高等学校入学者選抜審議会 記録

平成28年7月25日(月) 10:00~12:00
 県庁9階 第一会議室

<審議会委員>

柴山 直 委員長, 田端 健人 副委員長, 坪田 益美 委員, 金田 隆 委員, 村上 裕子 委員,
 伊藤 宣子 委員, 星 豪 委員, 新山 弘幸 委員, 齊 隆 委員, 村上 善司 委員,
 猪股 亮文 委員, 長島 勝彦 委員, 吉田 玲子 委員, 村上 礼子 委員, 小林 裕介 委員
 (欠席: 浅野 純江 委員)

<県教育委員会>

鈴木 洋 教育監兼教育次長, 伊藤 正弘 教育企画室長, 清元 けい子 参事兼義務教育課長,
 岡 邦広 高校教育課長, 佐藤 義行 仙台市教育局学校教育課長
 (欠席: 高橋 仁教育長, 西村 晃一教育次長)

(事務局)	(資料の確認)(公開の確認)
	(開会)
(事務局)	(新委員委嘱・辞令交付)
(教育次長)	(教育監兼教育次長 あいさつ)
(事務局)	(県教育委員会の主な出席者紹介)
(委員長) (副委員長)	(委員長 あいさつ) (副委員長 あいさつ)
(委員長)	(委員長 司会進行開始)
(委員長)	それでは、次第に沿って、始めてまいりたい。 はじめに、諮問となるが 事務局、準備願う。
(教育監兼 教育次長)	(諮問)「平成30年度宮城県立高等学校入学者選抜方針について」 「平成30年度宮城県立高等学校入学者選抜日程について」 「今後の県立高等学校入学者選抜の在り方について」
(事務局)	(事務局より、諮問の読み上げ確認) (別紙1)(別紙2)(別紙3)
(委員長)	それでは、諮問についての審議は、後ほど改めて時間をとって行う。 次第に沿って、まず報告をお願いする。 事務局から報告事項について3つあるので、まず、報告事項(1)「平成28年度宮城県公立高等学校入学者選抜結果について」、事務局から報告願う。 本日は、入学者選抜方針及び日程の諮問に加えて、今後の入学者選抜の在り方という大きなテーマについて諮問されている。

これらの諮問についての審議は、後ほど改めて時間をとって行うこととし、次第に沿って、まず報告をお願いします。

報告事項は3つあるが、審議の時間を確保するため、報告は、事務局から（１）～（３）までを一括して行い、その後それぞれの報告について質疑の時間を取りたいと思うが、それでよろしいか。

<異議なし>

（委員長） それでは、事務局からまとめて報告願う。

（事務局） （事務局より説明）

（委員長） 以上、報告いただいた。それでは、まずこの報告について御質問等はいかがか。まず、報告１について質問があればお願いします。

（村上善司委員） 先程入試結果の分析の中で、無答率と記述式問題の解答率が低いという御説明があった。これは義務段階においても全国学力学習状況調査等の結果でもそのような傾向が往々にしてみられるということがでている。

このような傾向はここ数年続いているのかどうかを、お知らせいただきたい。

（岡高校教
育課長） 今回の御質問についてであるが、４頁の分析結果にもあるように、知識理解を問う基礎的基本的な問題の正答率はずっと高い状態が続いている。しかしながら思考力、判断力、表現力を必要とする問題の正答率、得点率は低く、無答率が高いというのは、ここ数年の傾向として続いている。

（委員長） よろしいか。
では、伊藤委員お願いします。

（伊藤宣子委員） 各教科の概況を見て、宮城の子供達に対し、本当に時代を見据えた教育活動をするための教育環境を、しっかりと作っていかねばいけないのではないかと私は思う。

やはり時代が要請する子供たちの育ちはこのところ低い。このことを考えると、現在の中学２年生、すなわち３０年度の高校入試で高校教育改革、大学教育改革の実施年、第一期生になる、すなわち高大接続型の大学入試改革の一期生になる。

その子供達を考えると、やはりこの宮城県の高等学校の入学選抜の制度、この実態をもう一度考え直す時にきているのではないか。

この辺のところからも事実として、ここを大事にしていきたいということをごここで申し上げる。

（委員長） 高大接続改革については、国を挙げての方向ということなので、宮城県もそれに合わせる改革というのにも必要かと思う。
他に何かあるか。

<特になし>

（委員長） 次に、報告２について質問があればお願いしたい。

<特になし>

(委員長)	では、次に報告3について御質問があればお願いしたい。
(伊藤宣子 委員)	12頁のところに専門委員会の設置という事がある。 新入試制度についての効果を検証する、これは検証が進められていると私は理解している。次のところに、併せて県立高等学校入学の選抜の今後の改善の方向について調査研究を行うとあるが、この辺のところの進捗はどうなっているのかお聞かせ願う。
(委員長)	事務局から補足願う。
(岡高校教 育課長)	ただ今御質問があった今後の改善の方向についてであるが、昨年の12月から1月にかけて質問紙調査を実施している。その結果の一部について、今日の審議の中でも報告があるが、それを更に分析調査を進めていく予定である。
(委員長)	他にあるか。 <特になし>
(委員長)	では、御質問、御意見等、更にあるかとは思いますが、報告事項1から3については以上で終了とする。 続いて、会の冒頭に諮問があった3点について審議に入る。 次第に沿って、まず審議1「平成30年度宮城県立高等学校入学者選抜方針及び日程について」はじめに事務局から補足説明があればお願いします。
(事務局)	(事務局より説明)
(委員長)	以上の説明について、質問、意見があればお願いします。
(齊隆委員)	選抜方針の基本原則の(1)の確認だが、教育を受けるに足る多様な能力の中に、今、様々な中学生がおり、普通学級に在籍はしているけれども、多様な能力を持つことで、特別な配慮、まあ合理的な配慮とまで言えるかどうかだが、そういった能力を持っている子供たちも含めてのものなのか、或いはこの選抜方針が作られた頃にはまだそうした事は想定していなかったものかと思われるが、その辺を確認したいと思って質問した。
(岡高校教 育課長)	ただ今御質問のあった、基本原則にある多様な能力という点であるが、これについては、基本的に受験における内容を広くみるという事であるけれども、それぞれ個別の状況においても事前に御相談を頂いて、その点においても受験における平等性を考え、配慮をして、できるだけ広く適性・能力をみるという形で考えている。
(委員長)	他に御質問、御意見等あるか。
(伊藤宣子 委員)	平成30年度の実施についてのシミュレーションを提出されたわけだが、先ほど申し上げた様に、子ども達の学習環境、これをやはりきちんと作ってあげなければならぬと感じる。例えば、平成30年度の実施の第1案、第2案、これを実施という形になると、私学の場合は1月24日、1月26日となり、A日程、B日程が今までよりも一日早まってしまう。これは、公立高等学校の選抜試験と1週間のうちに3回もすることはありえないと考えられ、また、公立高等学校の選抜試験の前期日程と後期日程の間に私学の試験を入れるというのもありえない。平成28年度の子供たちの入試分析を考えると、1月は本当に学びの時間としてあげなければ、

これでも足りない。学校現場には、今、新しい教育のあり方がどんどん求められている。思考する力、分析する力、表現する力、これらの事がどんどん入ってきている。そうなった時に基礎基本の知識・技能だけの詰めこみ方式ではもうやっていけないという、柔軟な子供たちの時代、小中学校の時代に、しっかりと時間を確保して学びを提供しなければならない時期に入っている。

平成30年、これは新しい高大接続型の入試を受ける子供たちの高校受験である。確かに時間に余裕を持って間違いのない採点業務をしなければならないとか、いろんなことがある。

でも、そこは大人の仕事の部分である。大人の仕事の部分を超えて、子どもの学習と考えるならば、私は第1案、第2案はあり得ないと考えております。

どうぞ平成30年度の入試は、新しい時代の子供達、これが求められる初年度である、新しい宮城県の高校の入試制度が出来上がっていないということであるならば、大人の入試業務上のことはせめて新しい時代に送り出す子供達へのプレゼントにしませんか。

私はそのように申し上げたい。

(委員長) 今、学力の3要素、特に思考力、判断力、表現力の観点からの御発言があった。学力、子どもたちの学習環境を整えるということで、例えばアクティブラーニングとか、そういったことも踏まえての御意見かと思うが、何か事務局の方から補足等あるか。

(岡高校教育課長) 資料の方で提案している日程のシミュレーションだが、先程説明の中でもお話ししたけれども、中学校における受験の指導等を考慮しての日程配分ということになっている。

実際、日付という事もあるが、カレンダー上の曜日回りという点も考慮しなければならない。そういったところを総合的に見て、これまでの時間的な中学校等に対する配慮という点も考慮して、案1、2というものを提案しているわけである。

他県においても多数ということではないが、本県と同様の日程繰りを採用しているところもあり、私達事務局としてはこの案をお願いしたいと考えている。

もし、あと御意見があればお伺いしたい。

(委員長) はい、他には。

(伊藤宣子委員) このことはずっと、私が入選審に入ってから申し上げてきたことである。他県と比較して、という事よりは、宮城県の子供たちの実態を考えて、というような形で、純粹に考えられないのかな、という様な事をやはり私は再度強調したいと思う。

(委員長) ありがとうございます。

(齊隆委員) 今の伊藤委員の事を踏まえて、中学校の教育活動を充実させるというか、日程的に確保するという事も重要だと思う。

ただ、入試準備日程のなかの採点であるとか、合否判定に係る期間の中で、先程確認したけれども、多様な能力を評価するという事になった時に、もしかすると、従来通りの期間で可能なのかと、或いはもっと人員を増やすとか、何か時間を丁寧にかけることによって、多様な能力を評価してもらえるものという風にも考える。

中学校の教育活動の期間を確保してもらうというのもあるし、一方で多様な能力、適性を適切に評価してもらうためには、それなりの時間がかかるものと思われるので、短期間になったがゆえに、多様な能力を持っている子供たちの評価が十分になされないまま、いわゆる学習、当日の評価が3対7であるとか、4対6という風に高めの学校において、十分な審査がなされないということが無いように御配慮頂ければと思う。

(委員長)	<p>今のは意見として賜っておけばよろしいか。 それでは、これについては各委員それぞれ御意見があると思うが、併せて事務局でも吟味するという事で、これに関する結論は次回という事でよろしいか。</p>
	<異議なし>
(委員長)	<p>それでは審議1の平成30年度入学者選抜方針及び日程についての審議は以上とさせていただきます。 それではここで少し休憩を取りたい。11時15分から再開したい。</p>
	(休憩5分)
(委員長)	<p>それでは再開する。 審議の2つ目、「今後の県立高等学校入学者選抜の在り方について」であるが、先程事務局から諮問理由の説明があった。非常に大きなテーマであり、今後時間をかけて議論をする必要があるかと存ずる。 それでは、まず初めに事務局から補足説明があればお願いします。</p>
(事務局)	(事務局より説明)
(委員長)	<p>議論に入る前に調査データの結果等、質問があればお願いします。 <特になし></p>
(委員長)	<p>それでは、事務局からの説明はここで一区切りとし、議論に入りたいが、今後の入試制度の在り方、という非常に大きなテーマであり、様々御意見があるかと思う。 委員の皆様方においては、それぞれのお立場から、現行の本県の入試制度について、御意見や課題についてお考えになっている事など、自由に御発言をお願いしたい。 かなり多角的な角度から、この問題は検討していかなければいけないと思うので、ある意味ブレインストーミング的にお気づきの点をどんどん御発言頂きたい。</p>
(村上裕子委員)	<p>意見ではないのだが、質問してもよいか。 13頁の現在の入試制度の課題等のところに、7割以上の中学校で課題が無いと回答しているが、高校の方では半数以上の学校では課題があると回答していると、先程説明があったと思うが、具体的にその内容についてお聞かせ願いたい。やはり受験はその時中学生だけの受験ではなくて、その後大学受験を見すえたことも考えての事ではないかと思うのだが、ぜひお聞かせ願いたい。</p>
(事務局)	<p>回答が多岐にわたっている部分があるが、割合については、12頁にあるQ12番。「入試日程について」どのような具体的な課題があるのかという御質問にお答えする。 特に、高校の方で課題があると回答しているが、特にこの入試期間が始まると、1月から3月までの間、出願から受験日があって、合格発表があってというふうに、日程的には飛んでいるように見えるが、その間入試事務というのは継続してずっと途切れなく行われていく事になる。その中で、特に在校生への指導、つまり授業実数の確保という点で、入試事務が入ってくるとどうしても授業ができないといった事であるとか、途中には卒業式があったり、それぞれの高校では、学校行事があったり、といった事があるが、入試事務の隙間を縫ってそういった行事が行われてい</p>

る事から、学校の教育活動がなかなか充実しないといった課題である。また、高校3年生は、ちょうどこの時期、大学入試のシーズンでもあり、高校としては3年生の進学指導であったりとか、就職指導であったりとか、そういった指導がここに重ねて入ってくる。このような事を考えるとやはり高校では1月から3月までずっと入試事務がひっきりなしに続くというところでは、非常に大きな課題を持っているということが具体的に挙げられている点である。

(委員長) 今の点について、高校側として、長島委員、吉田委員、村上委員、何か御発言頂きたい。

(長島勝彦委員) 今、説明があったことに尽きる。本当に丸々2か月以上入試の作業が続くという事で、教材研究も、基本的な事も含めて、なかなか在校生、卒業生に向けての指導の時間、丁寧に指導していく時間というのが正直言って取れないのが、現実問題として非常に大きいと思っている。日程を取るというのは非常に難しいんだろうと思うが、現行の枠組みの中で、先程様々出ていた30年度の日程の取り方を見てもいたが、なかなか中学校、公立の高校、全てがうまくいくという日程の取り方というのは非常に難しいと思っている。

現行の枠組みの検討というのは早急にやっていかなければならないというのは、高校サイドとしては感じている。

(村上裕子委員) もう一つ、日程だけではなくて、この現行の高校入試制度について、中学校の先生方が思う考えと、高校の受け入れる先生方の思う考えも併せて、この変更の仕方についても、少しとらえ方が違うのであればその辺も教えていただきたい。

日程ではなくて、選考の内容、今現行の制度について、高校側が思っている事と、中学生を送り出す側の方の思いについてである。

私事で恐縮だが、大学生と高校生と小学生の子供が3人いて、大学生は旧制度で受験をしている。高校生は今の現行の制度で受験をしているが、一番下の子はこれからどうなるのか、という事で、内容について保護者の立場としては、色々なまわりの方から、この受験制度は始まったときからどうなんだろうと、まわりの母親たちの意見としては、始まったときから実はあって、いつになったら変わるんだろうということを、私の周りでは毎年この話題が出るので、今教育委員会でも先生方の間でもどのように思っているかを率直に伺いたい。

(事務局) 質問をもう1回確認したいが、日程以外で、中学校、高等学校、それぞれの立場で、この現行の制度について、どういう考えや思いを持っているのかというところを教えて欲しいということか。

(村上裕子委員) これまで、4年間実施してきて、考えも変わっている部分もあるかもしれないし、より深まっている部分もあるかと思うので、今までの流れで中学校、今までこの新制度になってそれぞれ高校の先生も感じていること、この制度をやってみてどういう風を感じているか、中学校の方も今4年目になってどのように感じているか、参考として伺いたいという事である。

(事務局) 10頁から調査結果について、グラフ化したものを紹介しているが、例えば10頁のQ1のところでは、「受験機会の拡大・受験者数の増加」について、中学校、それから高等学校それぞれで質問した結果を掲載している。中学校の先生方、中学校の方では、受験機会の拡大や受験者数の増加といった部分に、そこは後ろに「そう思う」という回答が続くものとして21.7%と58.6%を併せると、概ね8割位の方々が、学校が、そのように捉えている。一方で、傾向としては半数は超えているが、高等学校の方では中学校程にはその部分は評価していない。

よって、質問の一つ一つを御覧いただいて、中学校の方からの回答、中学校の方

にしか質問していない質問項目、そういったものもあるが、今、村上委員の方からお話があった部分のおおよそについては、どのような考えをそれぞれ持っているのかということについては、この調査結果を御覧いただくのが一番良いのだろうと思う。

もちろん、そう思うとか、どちらかといえばそう思う、という回答はしたんだけど、なぜそう思うのかとか、なぜどちらかといえばそう思うのか、というのは、やはり各学校が置かれている状況によって、違ってくるところはあると思うので、中学校、高等学校が、現行の入試制度について、これまでの経験を踏まえてそれぞれがどう思っているかという御質問については、この調査結果を御覧いただき、お汲み取りいただきたいという事である。

もう一つ、更にそれぞれの項目の中で、このような傾向が出ているのだが、その背景にいったいどのような考え方があるのか、そのようなお尋ねがもしあるのであれば、それについては記述の方を参照しながら、この部分についてはこのような背景でこのようにお答えになっているようです、といったように回答させていただければと思うが、それでよろしいか。

(委員長) その他、何かあるか。

(村上善司委員) 私がこれから言う事は、ある特定の地域、全部の教育委員会の教育長の方々の意見を聞いているわけではないので、石巻地区という狭い地区での意見と捉えておいていただきたい。鈴木教育監からこの入試制度がスタートして、今年で4年目になるということで、私もこの仕事を仰せつかってからちょうど5年目を迎えている。その間、入試制度というのは子供達の将来にかかわるという事で、大変重く教育委員会でも受け止めているところである。

ただ今の村上委員との話とも関るかと思うが、当地区は毎年のように大体後期選抜で1倍、或いは0.9倍という倍率で推移している。以前の傾向を見ると、石巻地区の生徒には相応しくない表現かもしれないが、どこかに入れるだろうという雰囲気が無いわけではなかった。ただ、この入試制度になって、高等学校並びに高校教育課がわざわざ本町にまで足を運んで、ちょっとその説明は難しいと思って意見を言った事はあるが、本当に高等学校の前向きな姿勢、そういうことが3年目を経過して、大変伝わっている。それで、保護者も、初めての保護者はなかなか傾斜配点とか、そういうことは確かに難しい。しかし2回目、或いはたまに3人目のお子さんの保護者等には、かなりこの制度は定着していて、「大丈夫だ、後期選抜で皆入れるから。」というようなことも出てきているのも確かである。

ただその中で、何が大きく一番変わったかという、各高等学校の特色ある学校作り、出願資格、そういうのが非常に明確化されて、子ども達の曖昧だった選択が、先程のQ2の「目的意識の明確化・主体的な進路選択」というのが、中学校で高い割合を占めているが、これは当地区でもこのような傾向が少しずつ出てきているのかなと思っている。

この前期選抜、後期選抜、第二次募集を、どのスパンで大きく評価してやるかというのは、非常に難しいなと私は思っている。少なくともこれまでの高等学校、そして高校教育課のそのような努力というのは、私は大いに評価したいと思っている。問題はこれをどの様なスパンで評価して、そして先程、伊藤委員からも出たが、いわゆる事務的な立場での評価と、生徒の視点に立った立場というのを、勿論高校教育課でも分けて行っているが、その辺をより明確にして、誰を主体にしてやるのかというようなところを、より明確にしていきたいと思っている。

本審議会の審議から外れると思うのだが、私は、先程の15頁の一番下に大きな課題というのが5つあり、これはもっともだなと思っている。その中で、私が更に思うのは、各高校の特色ある学校づくりというのをより具体的なものにしていただきたいという事と、やはり学校現場では、この学力の向上、これに尽きると思う。日々の授業の充実、進路指導の充実、でもこれは本町のことであり、全部に当て

はまることではないのだけれど、宮城県が今行っているこの「志教育」を長期的スパンの中でしっかりと行っていけば、どのような入試制度のフレームができて、対応できるのではないのかと思っている。

義務教育段階のレベルでは、その長いスパンでその「志教育」なるものをしっかりしていかなないと、この入試制度というのは、どのような制度をとっても、長所、短所というのは出てくるかと思っている。

最後にもう1点、先程説明の中で、仙台圏の集中について説明があった。これは当地区でも一番心配していた問題である。

ただ、本当に地元の高等学校、とりわけ、古い言葉だが、実業高校の御努力によって、何とか仙台圏集中というのは無いのだけれど、ただ、そのパーセントが低いからといって、そのパーセントを鵜呑みにするのではなく、例えば、当地区に限っていえば、行きたいけど行けないという様な事も多いという事も頭の片隅に置いていただければと思う。一方で、そのような家庭の問題も出てきていて、中央の方に行こうという勉強をしたいのだが、或いはこのような学科が石巻地区に無いからここに行きたいのだが、下宿をするのは大変だという様な事もある。だから、その数値だけではない部分があるという事もお含みいただきたい。

ただ、いずれにしても最初に戻るが、どのスパンで評価をして、どう変えていくというのは、まだまだ私はやってみなければわからないとは思っている。そして、学校いわゆる義務教育現場、中学校段階、いやもう少し小学校段階から、しっかりと子供たちに志を持たせる教育というものを、少なくともうちの町ではやっていきたいと思っているが、なかなかこれは一朝一夕ではできないと思っている。

大変長くなってしまい申し訳ない。

(委員長) 新山委員、星委員、中学校のお立場から何かあるか。

(新山弘幸委員) 非常に難しい所だと思うが、4回実施してきて、この前期選抜、後期選抜、そして第二次募集というものについては、学校側の指導、進路指導においても定着してきている。定着というのは、丁寧な指導が出来るようになってきているという事である。1回目の前期選抜の時は、条件を満たせば出願出来るという条件のため、どうしても子供達や親は、この条件をクリア出来ればある程度合格に近いのではないかという意識があった。その様な事であったのだが、この出願できるという事は、条件をクリアしたというだけで、全く可否とは別物である。出願できる条件なんだという事を、丁寧に子供達、保護者に説明していく様になった。それから、前期選抜の可否結果が出た後も2週間時間を取っていただいている。この期間というのは非常に重要で、不合格になった子供達に対するケア、それから再度後期選抜に向けた進路指導等を、もう一度丁寧に、再度やっていく必要があるという事で、そこで簡単に志望校を前期選抜で駄目だったから諦めるとかそういう事ではなくて、丁寧に指導していけるようになったという事が今出てきているので、かなり定着しているだろうと思っている。

そして資料の13頁、中学校側と高校側の受け止め方の違いという事で、Q18の課題で、中学校側としてはその学校の条件が曖昧であるという事を挙げている。高校側は6割が概ね課題が無いと回答しているという事で、この辺が今後非常に課題となっている。

それから、中学校における入試事務の煩雑さ、このことはまだあると思う。というのは、この入学者選抜一覧の各高校の条件を見ると、例えば、ある高校では部活動では、中総体とか新人大会において県レベルの成績を収めている者と、それからある高校では単なる県大会とか県のコンクールに出場したとなっている。県の大会というのを確認すると、まったく予選なしで県レベルの大会のしくみからある。それでも構わないのかと問い合わせると、それも良いですよとなっている。

それから、部活動とか生徒会活動でリーダーシップを発揮した者とあるが、そのリーダーシップというのは、何をもって中学校側で判断すれば良いのか。その辺は

勿論文言ではなかなか難しいのだけれども、そのところで子供達とか保護者との進路指導とか進路選択するところで、学校側との意思疎通が難しい点も出てくると思う。

それから、学校教育活動以外の活動のところで成績もあるので、それはもう保護者との確認事項で、丁寧に点検していくしかない。これが高校側の特色ある学校づくりと、中学生の多様性を求めているところで、非常にありがたい所であるが、その部分が入試事務の各学校の確認、条件の確認、点検のところで、非常に煩雑な部分が中学校ではあるということが課題になっているのかなとこれを読んでいた。以上である。

(星豪委員) この入試の時期についてなのだが、かなり前倒しになってきており、そして入試事務に担当者が携わる期間が非常に長くなってきたという事を感じている。特に昨年度は、私学の出願が12月の後半から受付というような事があり、そしてまた校内では、2学期の期末テストが始まる前に前期選抜受験者用の評定を示し、それに基づいて自分の前期選抜の学校がどこがふさわしいかという判定資料に子ども達や家庭がしているというようなことがある。本当は最後の11月末頃の最後の期末テストに全力を傾けて、そして更に次に高校入試で頑張るんだ、というのはかつてはあったが、今はもうそれがずっと前倒しという事が見られる。特に残念なのは入試を意識して、本校は若い教員が沢山いるが、初めて進路指導に携わるという教員が多いので、ベテラン教員がとにかく早め早めに準備しろという事で、進路指導も躍起になっている。中体連も、なんと高校総体は6月なのだが、中学校の総体はもう5月に終わってしまう。その後、受験の準備に取り掛かるということで、周りはみんな塾に行き出す。そしてまた、県大会出場権を得て、県大会で頑張れという部活の子供達も、それに煽られて塾通いという事で、県大会を目指しながら塾に通っているという、今まで見たことがないような光景が見られている。そして今日もまた中体連の県大会、最終日であるが、本校は三者面談、自分の進路を決めましょうということである。そして11月の面談には確実に決めるという事で、中学校生活が半年以上様々な教育活動が全部前倒しとなっている。ある学校では体育祭を1学期に行い、文化祭を9月で全部終わらせてしまう。文化活動で非常に良くなってきたと感じてきたところが、発表の機会がずっと早くなってきたり、子ども達のスポーツ、そして文化面の様々な能力が開花しないうちに、もっと頑張れば力がついて様々な力が広がるであろうというところを、皆受験、受験というところに追い込まれている傾向があるのかなと思っている。もう少し余裕を持って学校本来の活動ができる時間を確保できれば良いなと思っている。

(委員長) 私の不手際でかなり時間が押しているが、仙台市教育委員会の方で何かあるか。

(猪股亮文委員) 本日は委員の皆様、それから事務局の皆様のお話をお伺いして感じた事であるが、やはりこの入試の制度は長い歴史があり、それぞれ課題があって、その課題を解決する為にどうしたら良いのかという事を連続して考えてきて、今があるんだろうと思う。当然の事ながら一長一短もろもろあって、現行制度についても一長一短あるものの、一定の成果は上がっているという事だろうと理解はしている。ただ、昨今の義務教育の児童・生徒についてよく言われているのは、学習意欲の低下であるとか、自己肯定感の低下であるとか、そういった現状の課題がある。そのような事を踏まえながら、この入試という事を考えていった時に、どうしたら良いかというのを考えてみたが、今日頂いた資料1の15頁の下のところ、現状入試制度の改正案という事で5点ほど書かれている。どれも大事だろうと思うが、高校生活をいかにその生徒に充実したものにしていくのかという事を考えた時には、その上から3番目の生徒の意欲・目的意識を大切にするというところが非常に大きな要因になってくるのだろうと思う。つまり生徒の学びに向かう力というか、そういったところをしっかりと把握しながら、入試制度もその在り方を考えていかなければ

ればならないのではないかという事を、今日皆様のお話をお伺いしながら感じた次第である。

(委員長) それでは、時間が詰まってしまう、御意見をお伺い出来なかった委員の方々申し訳ない。それでは、今委員の皆様から様々な観点からの御意見や課題が示された。現行の入試制度の現状と課題について委員の皆様がある程度、私がお聞きしていた中学生、高校生の本来の学習環境というのが、かなりいろいろな点で圧迫されているのかなという感触を持った。今後そういった点等を踏まえ、現行の入試制度について、今後の方向性を幅広く議論していきたいと思う。
かなり幅広い議論になると思うが、今後の検討の段取りについて、事務局の方でどのようにお考えか。

(事務局) (事務局より説明)

(委員長) ただ今説明があった審議会のスケジュールについてだが、これだけ大きなテーマについて、今回含めて3回ではちょっと十分な検討が難しいかと思うので、審議会での議論のたたき台を作成するために、小委員会を設けたいと考えるが、委員の皆様方いかがか。

<異議なし>

(委員長) それでは皆様から賛成いただいたので、小委員会の設置について事務局で調整していただきたいと思うがいかがか。

(事務局) ただ今委員長から提案のあった小委員会であるが、事務局としては、次第の裏面にある入学者選抜審議会条例、第2条第2項に基づいて、本日の審議会の前半で設置された専門委員8名の方々に構成される小委員会を設置するという事でいかがか。

(委員長) ただ今事務局から小委員会の設置について、先程報告があった専門委員8名で構成してはどうかという提案があったが、委員の皆様方それでよろしいか。

<異議なし>

(委員長) ありがとうございます。
それでは、この案で進めることとする。
本審議会から専門委員に選ばれている4名の委員の皆様がおられるが、田端副委員長をはじめ4名の皆様には小委員会のメンバーとしてどうぞよろしくお願いする。
それでは、小委員会の開催のスケジュールについて、事務局から何か補足はあるか。

(事務局) 審議会のスケジュールを踏まえて、今後、月1回程度の開催を予定したいと考えている。具体的な開催日程については、審議会委員ではない専門委員の方々もいることから、今後小委員会のメンバーの方々と調整したいと考えている。
小委員会の開催日程が決まったら、柴山委員長の招集ということになるので、御了承願う。
なお、本審議会同様、原則公開ということになるが、非開示情報等含まれる場合、または公開することによって公平円滑な審議に支障が生じるといった場合には、協議の上、非公開とする場合があるので、予め確認しておく。
まず、第1回小委員会を8月の中旬頃を目処に開催する方向で調整したいと考え

	ている。
(委員長)	今、事務局から小委員会の開催、それから公開、非公開の話もあったが、確かに非公開情報等が出てくるかと思うので、その場合、非開示もあるということでしょうか。
	<異議なし>
(委員長)	それでは、小委員会は今の内容で進めていただきたい。 その他、委員の皆様から何かあるか。
	<特になし>
(委員長)	事務局から何かあるか。
(事務局)	次回の予定について御連絡する。 本日、3点について諮問したが、今回はこのうちの2つ、「平成30年度宮城県立高等学校入学選抜方針及び日程」について答申をいただきたいと考えている。 また、高校入試の在り方について、小委員会での議論を踏まえて御審議いただくことになる。 なお、第2回目の審議会は、11月上旬を予定している。 日程調査表により調整し、御案内申し上げます。 また、小委員会の開催日程についても、今後速やかに調整し、専門委員の方々に御案内申し上げます。
(委員長)	それでは、次回の審議会は11月上旬ということで、事務局に調整をお願いする。 また、小委員会においても同様をお願いする。 本日の審議はこれまでとし、事務局にお返しする。
(事務局)	(会進行)
(事務局)	(閉会)